

2001年春季の福島県いわき市沿岸 でみられた海況の急変（短報）

水野拓治

Abrupt change in the hydrographic Conditions off Iwaki, Fukushima
in Spring, 2001 (Short Paper)

Takuji MIZUNO

2001年の福島県沿岸は極めて特異的な海況の年であった。2月、3月に極めて強勢な親潮系冷水の南下があり、福島県水産試験場の調査史上唯一、氷点下を観測した年である。また、塩屋崎、鵜之尾崎沖海洋観測とともに、12月に50海里以内の100m深で20 台がみられたのも海洋観測のデータの残る1961年以来、初めてのことであり、極めて強勢な黒潮続流の接岸がみられた年でもあった。

ここでは、3月下旬から4月上旬の間に見られた親潮系冷水の南下接岸と黒潮系暖水の北上接岸のごく短期間での入れ替わりを、福島県水産試験場所属「いわき丸」で行った福島県いわき市沿岸、北緯36度55分ラインにおける定線調査で観測された結果から示す。使用した測器はシーバード社製CTD、SBE9plus及びSBE19、並びに、SBE9plus搭載のシーポイント社製クロロフィルaセンサーである。

図1に鉛直水温等値線図を示す。図2に鉛直塩分等値線図を示す。図3に鉛直クロロフィルa分布を示す。

2001年3月27日には、東経141度30分に氷点下、塩分32.6PSU台の極めて低水温、低塩分の親潮系冷水が見られている。また、通常、福島県沿岸では、水温上昇期の4月以降にみられる高濃度のクロロフィルaが、この親潮系冷水に見られていることも、極めて特異的な現象であった。

一方、半月後の2001年4月12日には、水温16 台、塩分34.6PSU台の福島県沿岸ではまれにしか観察されない黒潮続流と考えられる水塊に変わっている。2001年4月3日から4日の塩屋崎沖定線（北緯37度線）を含む沿岸定線観測では、親潮系水の南下基調が継続しており、黒潮続流の北上、接岸は観測されておらず、また、表1に示す4月11日の北緯37度05分、東経141度03分で行ったCTD調査においても、ごく沿岸には、まだ、黒潮系暖水は見られておらず、この変化は、4月11日から12日の間に突然起こった可能性が考えられる。

表1 2001年4月11日の北緯37度05分、東経141度03分におけるCTDデータ

水深 (m)	水温 ()	塩分 (PSU)
10	8.55	33.382
20	8.40	33.377
30	7.88	33.415
35	7.41	33.506

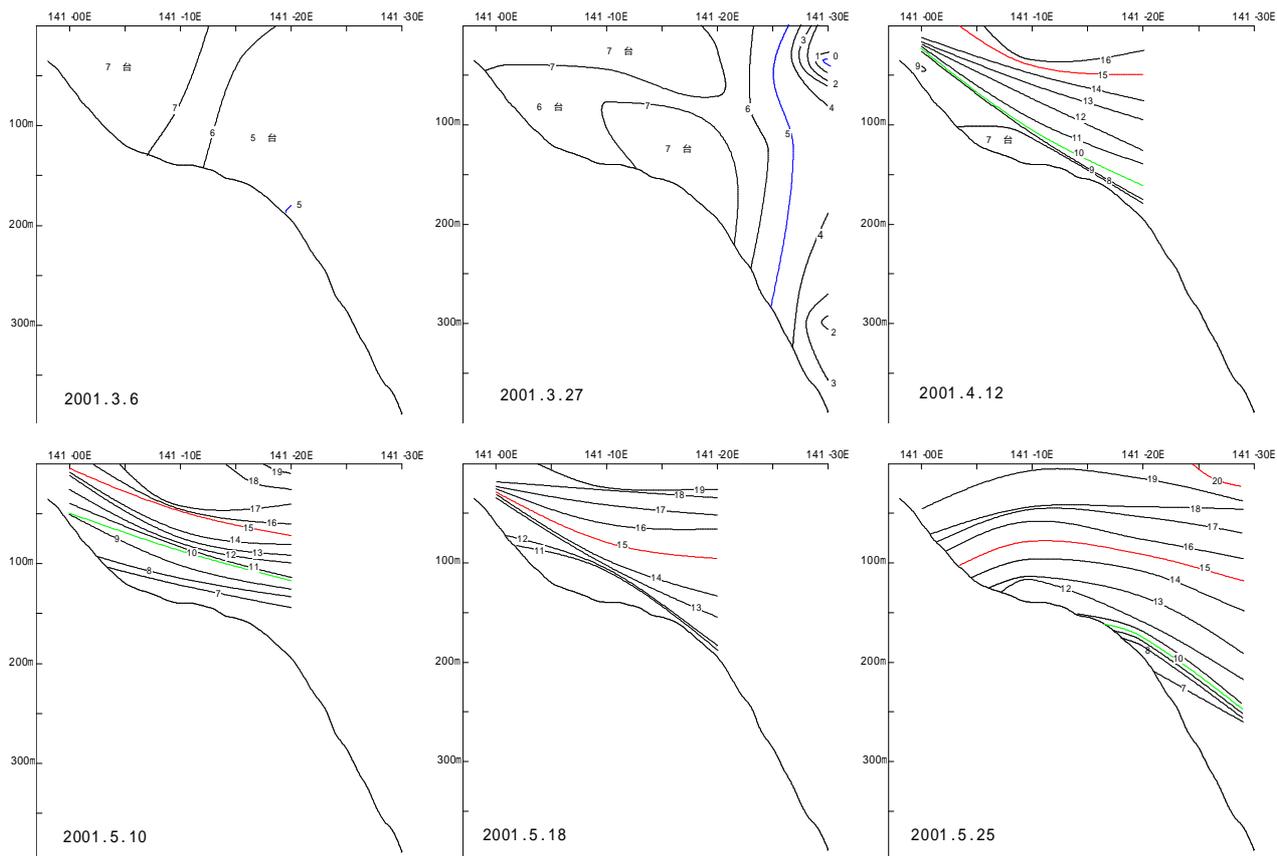


図1 北緯36度55分線の鉛直水温分布(単位：)

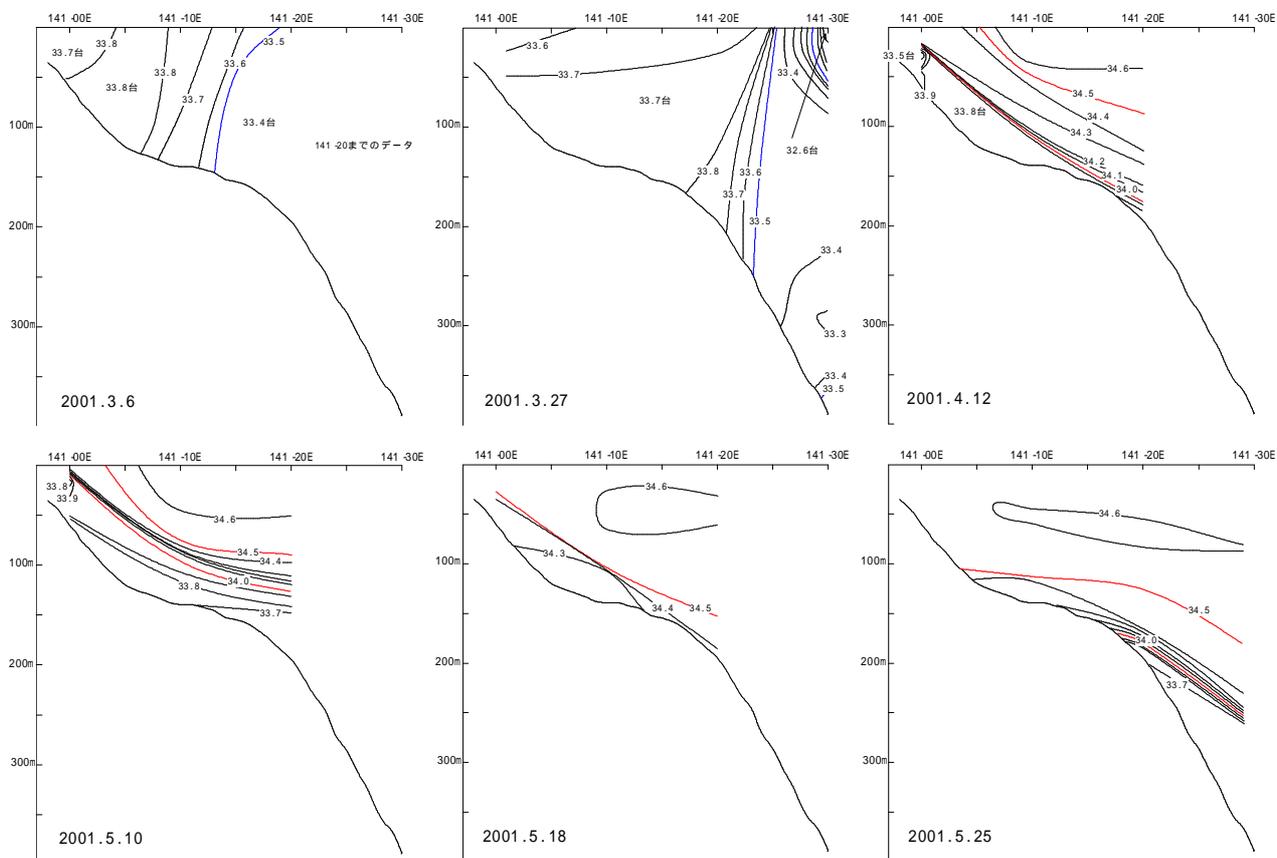


図2 北緯36度55分線の鉛直塩分分布(単位： P S U)

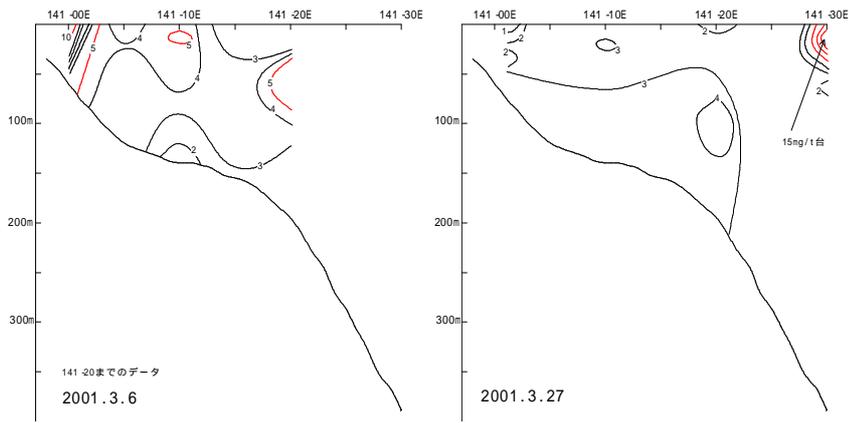


図3 北緯36度55分線の鉛直クロロフィルa分布(単位： $\mu\text{g}/\text{l}$)